

下関北九州道路

環境影響評価準備書の あらまし

 山口県

 北九州市

令和6年10月

目次	1	事業概要	2
	2	環境影響評価手続き	3
	3	環境影響評価の結果	6
	4	今後の流れ	19
	5	縦覧等	20

1. 事業概要

はじめに

下関北九州道路は、下関市、北九州市の都心部を結び、循環型ネットワークの形成により、くらし、産業・物流、観光、渋滞緩和など地域の一体的発展に寄与するとともに、本州と九州の広域的な人流・物流及び経済活動の活性化を支える大動脈であり、更に、災害時の代替路としての機能・役割を担う道路です。

下関市と北九州市を結ぶ延長約8kmの道路を、都市施設として都市計画に定めるにあたり、都市計画決定権者(山口県、北九州市)が都市計画の手続きとあわせて環境影響評価の手続きを行います。

この「あらし」は、環境影響評価方法書の手続きにより決定した環境影響評価の項目について、調査・予測・評価・環境保全措置の検討結果を示し、環境の保全に関する考え方をとりまとめた「環境影響評価準備書」の概要を示したものです。

都市計画対象道路事業の位置



都市計画対象道路事業の目的

本州と九州を繋ぐ関門橋及び関門トンネルでは、自然災害や事故、補修工事等による通行止めが発生しており、通行止めによる著しい交通渋滞が市民生活や企業活動へ大きな影響を及ぼしています。さらに、下関市及び北九州市間の移動は大きな迂回が必要であるとともに、両市の中心部及び両市を接続する国道3号、関門トンネル等では、交通混雑が発生しています。

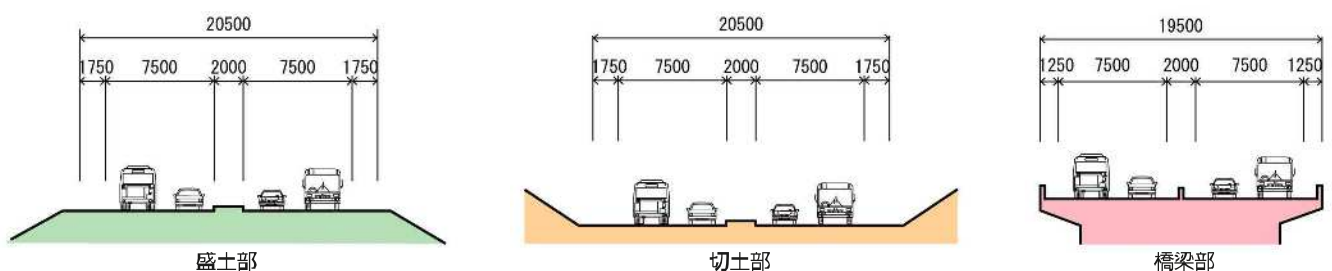
下関北九州道路は、関門トンネル・関門橋の代替機能の確保、さらには循環型ネットワーク形成による関門地域の一体的発展を目的とした道路で、「暮らし」「産業・物流」「観光」「代替路」の4つの政策目標を達成するために整備する道路です。

都市計画対象道路事業の概要

都市計画対象道路事業の名称	1・4・2 下関北九州道路 / 1・4・44-10号 下関北九州道路		
都市計画決定権者の名称	山口県 (代表者の氏名: 山口県知事 村岡 嗣政、住所: 山口県山口市湊町1番1号) 北九州市 (代表者の氏名: 北九州市長 武内 和久、住所: 福岡県北九州市小倉北区城内1番1号)		
都市計画対象道路事業の種類	高速自動車国道または、指定都市高速道路または、一般国道の新設もしくは改築		
起点/終点	起点: 山口県下関市 / 終点: 福岡県北九州市		
道路延長	約8km		
車線数	4車線		
設計速度	80km/h		
道路区分	第1種第3級		
道路構造の概要	盛土(約0.1km)、切土(約1.1km)、橋梁(約6.8km)		
計画交通量	約7,800~28,200台/日		
工事区分及び想定される工種	土工	盛土部	準備工、擁壁工、盛土工、法面工、舗装工
		切土部	準備工、掘削工、法面工、舗装工
	橋梁工	橋梁部(陸上部)	準備工、基礎杭工、土留工、掘削工、橋台・橋脚工、橋梁架設工、床版工、舗装工
		橋梁部(海上部)	主塔基礎・橋脚基礎: 準備工、掘削工、ケーソン設置工、根固め工、躯体コンクリート工 / アンカレイジ: 準備工、掘削工、躯体構築工 / ト部工: 主塔架設工、ケーブル架設工、桁架設工、舗装工

標準横断面

【単位: mm】



2. 環境影響評価手続き

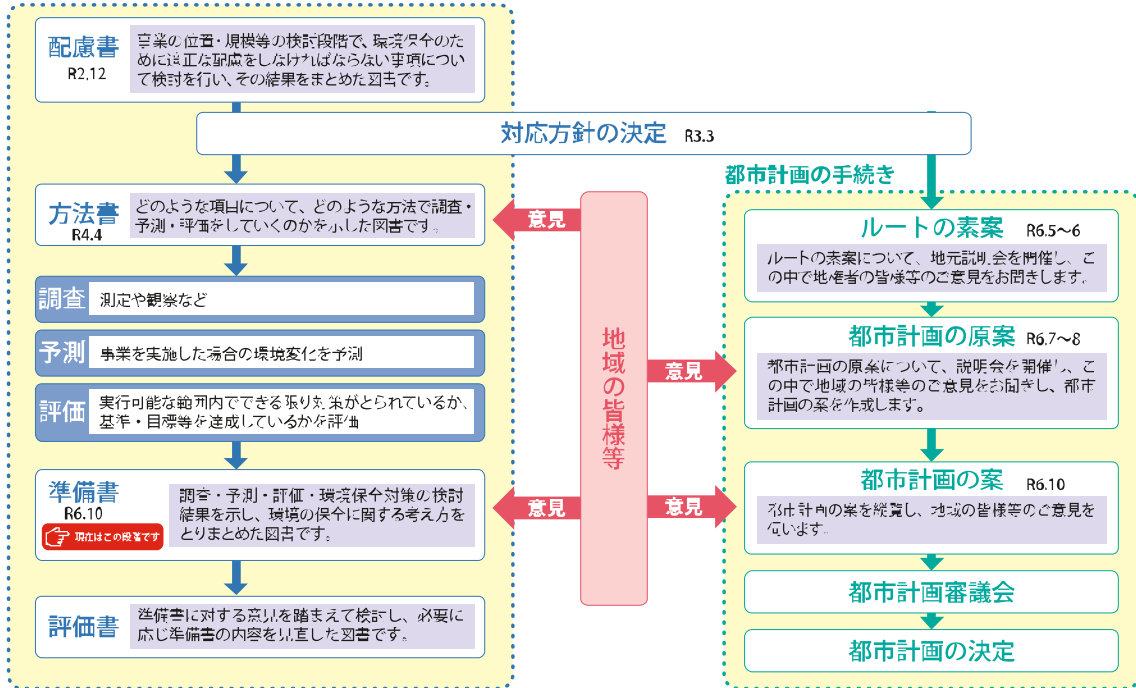
環境影響評価（環境アセスメント）とは／環境影響評価準備書とは

環境影響評価とは、開発事業の内容を決めるにあたって、環境にどのような影響を及ぼすかについて、事業者自らがあらかじめ調査・予測・評価を行い、その結果を公表して地域の皆様、地方公共団体などから意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点から、よりよい事業計画を作り上げていくための制度です。

環境影響評価準備書とは、環境影響評価方法書手続きにより決定した環境影響評価の項目について調査・予測・評価・環境保全措置の検討結果を示し、環境の保全に対する考え方をとりまとめたものです。

今回の環境影響評価準備書の手続きにおいては、準備書の公告・縦覧及び説明会を行い、地域の皆様や地方公共団体より環境影響評価の結果について意見をいただきます。

環境影響評価の手続き









環境影響評価の項目

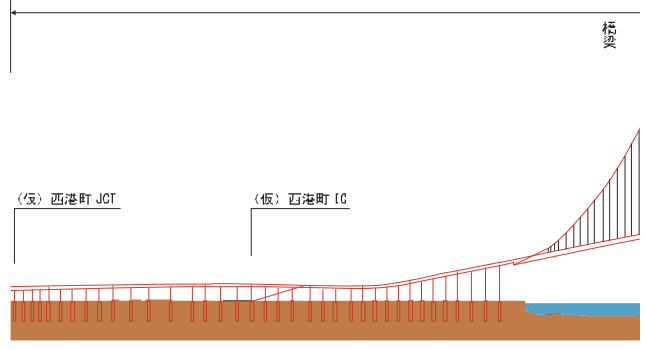
環境影響評価を行う項目は、事業や地域の特性から、環境に影響を及ぼすおそれのある要素を抽出し、さらに計画段階配慮書及び環境影響評価方法書の手続き結果を考慮して選定しました。

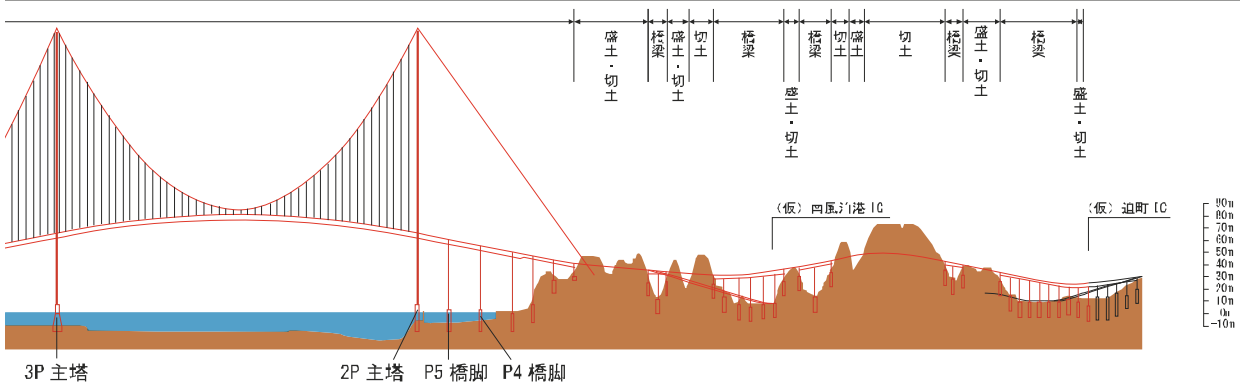
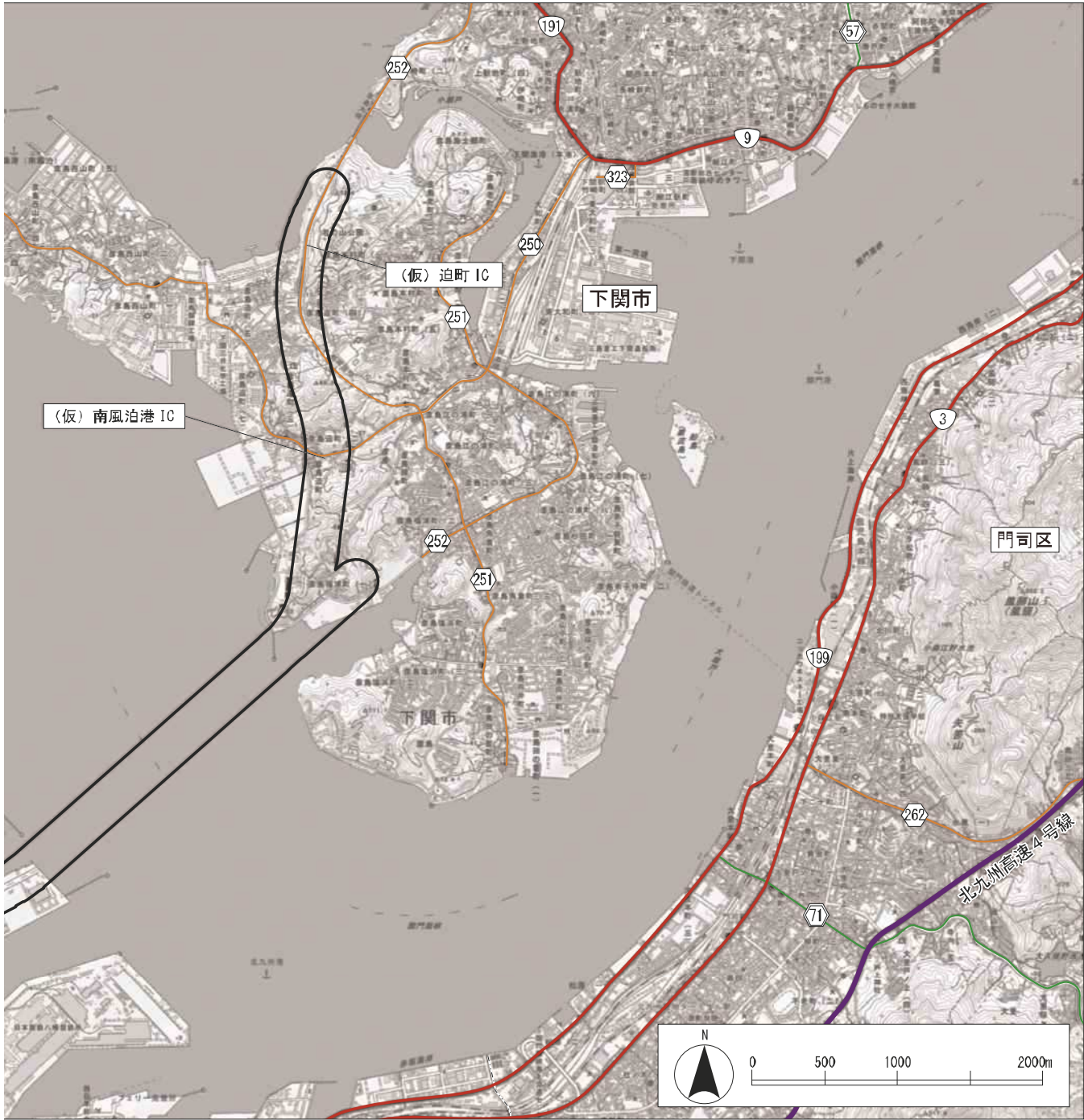
環境要素の区分		環境要因の区分		工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用			
		建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存の工作物の除去	設置工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	水底の掘削等	掘削式又は道路（地表式又は存在）の存在	道路（高上式）の存在	自動車の走行	
大気環境	大気質	二酸化窒素、浮遊粒子状物質									●
		粉じん等		●	●						
	騒音	騒音		●	●						●
	振動	振動		●	●						●
水環境	低周波音	低周波音									●
	水質	水の濁り					●		●		
底質	底質							●			
	地形及び地質	重要な地形及び地質					●			●	
その他の環境	その他の環境要素	日照障害								●	
動物	重要な種及び注目すべき生息地		●			●		●	●		●
植物	重要な種及び群落					●		●	●		●
生態系	地域を特徴づける生態系					●		●	●		●
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観									●	
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場									●	
廃棄物等	建設工事に伴う副産物				●						

都市計画対象道路事業実施区域位置



- 凡例**
-  都市計画対象道路事業実施区域
 -  行政界
 -  都市高速道路
 -  一般国道
 -  主要地方道
 -  一般県道





注) 「都市計画対象道路事業実施区域」(以下、実施区域)とは、当該道路事業により土地の形状の変更並びに工作物の新設及び増改築が想定される概ねの範囲とし、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置が想定される概ねの範囲も含むものとします。なお、実施区域は、準備書の作成の時点において、既に変更の余地のないものとして決定されている区域という趣旨ではなく、その時点において対象事業の実施が予定される区域をいいます。

3. 環境影響評価の結果

環境保全への配慮事項

対象道路の位置に係る配慮事項

- 環境の保全についての配慮が特に必要な施設等(※)の通過をできる限り回避するとともに、自然環境及び土地の改変量を極力抑え、環境負荷を回避又は低減させた計画
※集落及び市街地、学校・病院その他の環境配慮施設、重要な地形及び地質、注目すべき生息地、重要な植物群落、主要な眺望点及び景観資源、主要な人と自然との触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源等

対象道路の構造に係る配慮事項

- 陸域では、河川及び水路を回避した計画
- 海域では、橋梁の橋脚及び土塔は最低限の箇所数とし、必要以上に断面積を大きくしない計画
- 対象道路が通過する横断道路や水路は機能を確認するため、カルバートの設置等を行うとともに、動物が移動できるよう、必要に応じて構造及び大きさを検討
- 動物のロードキルを抑制するため、侵入防止対策等を検討
- 夜間照明は、照明の漏れ出しを防止した構造及び昆虫等の誘引性の低い照明の採用を検討
- 周辺景観との調和、地域住民への配慮のため、道路の法面緑化(可能な限り在来種での施工)、構造物・道路付属物のデザイン・色彩等を検討
- 海域では、活断層の存在から安全面に配慮して橋梁構造を採用

工事計画に係る配慮事項

- 土地の改変を最小限に抑えるため、陸域では、工事施工ヤードは計画道路上を、工事用道路は既存道路を極力利用し、海域では、工事施工ヤード及び建設資材等の運搬は海上を利用する計画
- 工事用車両台数の抑制等を図るため、特定の時期に集中しないよう工事計画を検討(工事の平準化)
- 工事用車両の運行に伴う環境影響を低減するため、既存道路の交通量等を考慮した工事用車両の運行ルートを選定
- 事業に伴い発生する廃棄物等の再利用又は適正な処理・処分等
- 建設発生土の飛散・流出等抑制のため、工事施工ヤードでの一時仮置きが極力発生しないよう、詳細な施工計画を策定
- 河川等への濁水の流出を抑制するため、直接流水と接しない工事を実施するとともに、必要に応じて仮排水溝、沈砂池、濁水処理施設を設置
- 海域での濁水の発生・拡散等抑制のため、水底の掘削に関する工種の施工時期の集中を回避し、汚濁防止膜を設置
- 粉じん等や土砂流出が極力発生しないよう、盛土・切土では速やかに法面整形・法面緑化を実施
- 外来種の持ち込みに対する配慮、必要に応じた特定外来生物の防除を実施
- 揮発性有機化学物質の排出に配慮し、橋梁等の塗装について使用する塗料・資材を選定

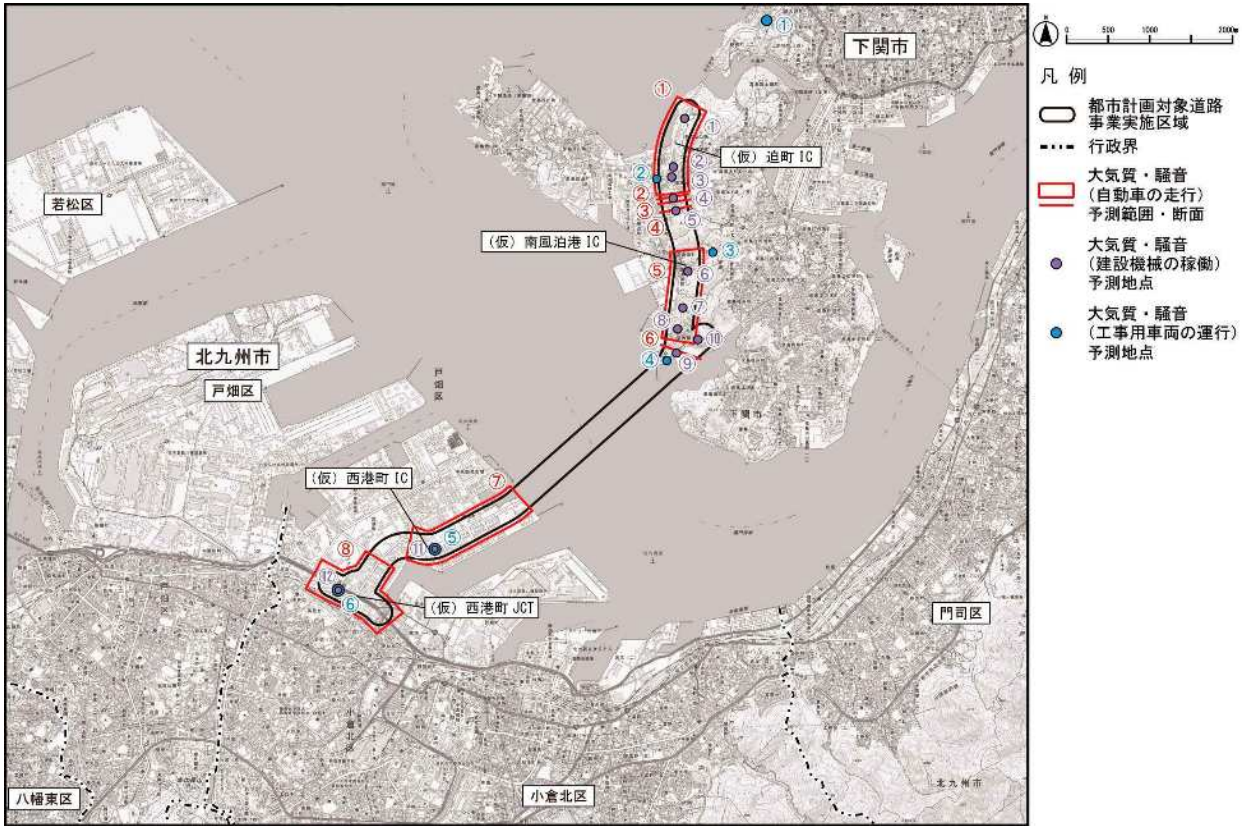
その他の配慮事項：温室効果ガス

- 効率的な施工計画の策定、グリーン購入法に基づく特定調達品目等の使用
- 工事における省エネルギー化の推進、再生可能エネルギーの利用等
- 道路照明のLED化等の省エネ設備の導入、道路管理における再生可能エネルギーの導入等

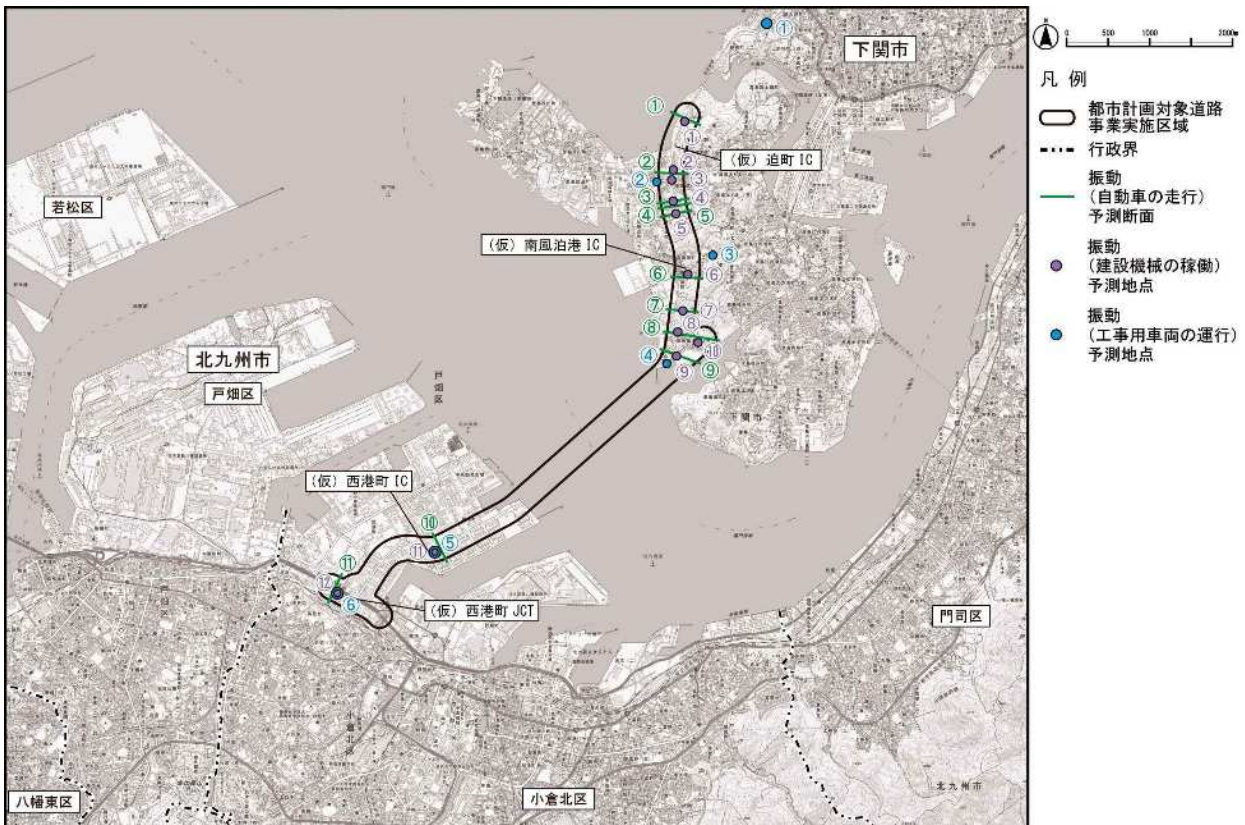
解説 **カルバート**▶ 道路が別の道路や水路等と立体交差する場合に設置される道路横断施設です。
ロードキル▶ 道路による影響で、野生動物が車両に轢かれる・ぶつかる、道路脇の排水溝内へ落ちて溺れることなどにより死傷することをいいます。

予測地点等位置図 (1 / 3)

大気質・騒音



振動



予測地点等位置図 (2 / 3)

低周波音・日照障害



水質・底質・地形及び地質

